



Monthly Theme

RCとLGSシステムのハイブリッド工法が生む桜の下で眠る家

1層目の空間をRC(鉄筋コンクリート造)で作る。それを大きな基礎と見立てて、その上にLGSシステムで平屋を載せるハイブリッド工法。敷地の特性や素材感の適材適所を加味することで、デイトナハウスの可能性はますます広がるのです。

分譲地などよく見かける台状の土地。もともと山だった場所を切り開いて作られたその宅地は、概ね石垣や土留めに用いる「間知石」を積んだ台の上に家を建てるように設定されています。でもこのような敷地はクルマ＆バイク好きには興味が湧かないもの。何故なら道路面からガレージまでのアクセスこそが、彼らにとって重要な要素だからです。

分譲地などよく見かける台状の土地。もともと山だった場所を切り開いて作られたその宅地は、概ね石垣や土留めに用いる「間知石」を積んだ台の上に家を建てるように設定されています。でもこのような敷地はクルマ＆バイク好きには興味が湧かないもの。何故なら道路面からガレージまでのアクセスこそが、彼らにとって重要な要素だからです。

RCの重厚な土台の安心感の上に載ったミッドセンチュリーテイストのLGS平屋リビング。木デッキスペースはまるで航空母艦の飛行甲板。リビングの面積はコンパクトながら仲間を呼んで十分楽しめる開放感を確保。センスの良いランドスケープデザインで“合理的な贅沢”が実現します。

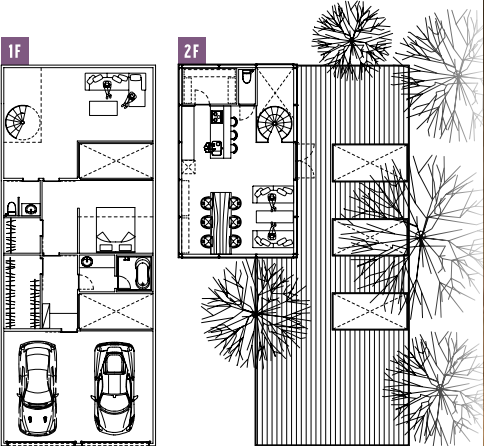
Living

Bed Room

重厚なRCに守られた寝室の上には天窓が開いていて、桜の季節にはハラハラと散る花びらを見ながら眠る趣向です。昔の人は「桜の下には死者が眠る」と考えていましたが、それは不吉な話ではなくて「繰り返す再生の物語」です。毎日新しい自分に再生することができる寝室なのです。

平面図に記載されたバツ印の部分は、『ドライエリア』と呼ばれるものです。屋根のない地下の半戸外空間、地下にある中庭的なものだと考えてください。各室はドライエリアから通風や換気が取れるのも魅力。ふり仰げば、木製ルーバー越しに満開の桜と春の柔らかな青空が。外部の刺激が適切に伝わる、明るく健康な地下室なのです。しかも外部のノイズを遮断するRCならではの特長も兼ね備えているのです。

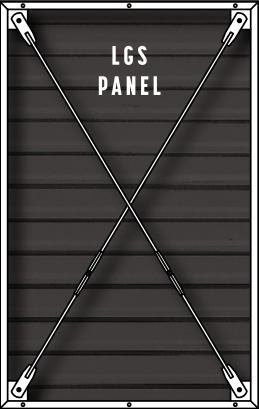
FLOOR PLAN



デイトナが提案する新しい建築のカタチ

DH×L
DAYTONA HOUSE×LDK

CASE 29



19
PANELS

What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、『ブレース』と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。『柱』と『梁』と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

www.daytona-house.com

LDKinc.

代表:玉田敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社 LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

Photo/Ken TAKAYANAGI Text/Atsushi TAMADA



モーターフリークの 新たな基地となる GLBのニューバージョン

1F

1Fのガレージスペースは、壁面を従来の白色からダークグリーンにイメージチェンジ。これによってさらに“無骨さ”を増幅しました。適度にあしらったインナーグリーンや、愛着のギア類とも共鳴して、まるで愛機と会話できるような空間です。朝、この場所から出撃する。夜、友とここでグラスを傾け、ツーリングの計画を練る。デイトナハウスが提案する豊かなモーターライフのイメージがここにあります。



ガレージスペースは、クルマ1台、バイク2台が充分格納可能なスペース。ガルバリウムの壁面や鉄骨フレームには磁石が付くためその空間を用いた変幻自在なディスプレイも可能です。



デイトナハウスのオリジナル棚金物「FASブラケット」がその真価を発揮するガレージ空間。これは構造体にブラケットを付ける事で、ディスプレイが楽しめるラックになってしまうスグレモノ。他にもこの建物では骨格が剥き出しとなっているため、骨格自体に小物を“置いたり”、“ぶら下げたり”して、空間を楽しんだり友好的に活用することが可能です。

艶消し鉄骨の梁がメリハリを作り出す吹き抜けの空間が、GLB 2階部分の特長です。ここはまさに冒険心にあふれた人生観を持つ男のための場所。梁上にはスキーやカヌーといった大きめのギアも格納可能です。この部屋にはベッドは不要。是非ともロフト空間にマットレスを敷いて眠ってください。



2F 鉄骨の吹き抜け空間を 独り占めにする居住スペース



ツヤ消し鉄骨の梁がメリハリを作り出す吹き抜けの空間が、GLB 2階部分の最大の特長です。ここはまさに冒険心に溢れた人生観を持つ男のための場所。梁上にはスキーやカヌーといった大きめのギアも格納可能です。リビングスペースにベッドを置くのではなく、ロフト空間にあえてシンプルなマットレスなどを敷いて眠るのがオススメです。



デイトナハウスオリジナルのスチールサッシが持つシャープなラインが、インダストリアル感満点のモダンデザインを強調します。

今回、東京の物件ということで、ユザーさんはもちろんのこと、建築を検討されているオーナーさんにも実体験できるよう、この写真の場所を常設ショールームとして設定しています。デイトナの連載でお馴染みのR1150GSカスタムや、オリジナルの棚金物「FASブラケット」にディスプレイされたギア類など、愛着の品々が醸し出す、豊かなモーターライフのイメージがリアルに体感できるスペースです。また多くのデイトナハウスオリジナルの分解式らせん階段「ダイナソーポーン」にも触れることができますので、その秀逸な素材感を体感してみてください。詳しくはデイトナハウスのWEBサイトをご覧ください。

既にご小牧、浜松と実例を積み重ねてきたGLBですが、BH2315では内部の壁を従来の白色からダークグリーンに統一。これによって、ツヤ消し鉄骨フレームと壁面のグリーンがグラデーションを生み出し、ガレージや室内空間をよりハードボイルドな印象に仕上げています。また、建物の顔となるファサードには、大開口ガラスウォールを採用。デイトナハウスオリジナルのスチール

サッシが持つシャープなラインが、インダストリアル感満点のモダンデザインを強調します。

今回、東京の物件ということで、ユザーさんはもちろんのこと、建築を検討されているオーナーさんにも実体験できるよう、この写真の場所を常設ショールームとして設定しています。デイトナの連載でお馴染みのR1150GSカスタムや、オリジナルの棚金物「FASブラケット」にディスプレイされたギア類など、愛着の品々が醸し出す、豊かなモーターライフのイメージがリアルに体感できるスペースです。また多くのデイトナハウスオリジナルの分解式らせん階段「ダイナソーポーン」にも触れることができますので、その秀逸な素材感を体感してみてください。詳しくはデイトナハウスのWEBサイトをご覧ください。

デイトナ不動産

BLACK HANGAR 2315

足立区にガレージアパート『GLB』の 常設ショールームが遂に登場！

先ごろ完全竣工した、東京都足立区のガレージアパート『BLACK HANGAR 2315』内に、室内のイメージがいつでも見える、常設のショールームがオープンしました。その全貌をご紹介します。

